

令和3年度 申間市立有明小学校 学校関係者評価書

評価項目	評価項目	具体的な方策・手立て	学校の自己評価		学校関係者評価委員の意見	評価	
			結果の考察・分析及び改善策等	自己評価 指標別 総合			
1 かしこい子	① 学習内容の定着・学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークショップ型の研修やグループによる授業研究を充実させ、指導力向上に生かす。 ○ 学力テスト結果で落ち込んでいた作文力を向上させるために、全職員で「200字作文」等のスキルタイムの指導に取り組む。 ○ 「家庭学習の手引」により、家庭学習の習慣化を図る。 ○ 「学力調査 過去問」を活用することにより、学習問題に慣れさせ、問題に取り組む力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の実態や授業改善の課題から授業の視点を決め、グループ研究により授業改善を続けている。また、1単位時間の授業構成を示した「有明スタイル」を作成し、共通活用することで、更なる授業改善につながっている。 ○ 作文力向上のために、スキルタイムで「200字作文」「算数評価テスト」「習熟」等を計画的に実施し、作文を書くことに慣れてきている。 ○ 学力検査の過去問やフォローアップ問題を活用することで、問題の解き方が分かり、無回答児童が減少している。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 200字作文は、決められた文字数や時間で、自分の考えをまとめて表現する訓練になって大変すばらしい。授業や集会等で発表の機会があるのもそうです。 ○ 書店がなくなり、手に取って本に触れられる図書館の取組はありがたい。続けていただきたい。 ○ 具体的な方策、手立てを立てて実践されていてすばらしい。 ○ 子どもたちが自分の考えを書いたり発表したりアンケートで昨年に比べ、児童も保護者も高くなっているのは効果の表れだと思う。 ○ 新聞等に有明小の児童が載っているとうれしく思う。 ○ 家庭学習や読書習慣は家庭との連携が重要だと思う。ノーメディアデーや親子読書など更なる取組を希望する。 ○ 学校内の学習においては、「3者とも理解している」が80%以上であるため、充実した授業ができていないかと思う。しかし家庭学習について児童と保護者及び先生では、認識の違いが出ている。家庭での自学や宿題の量を検討することで更なる学力向上が見込めるのではないか。 ○ 大学入試センター共通テストで7科目で過去最低の点数だとか。子どもたちの将来が心配される。家でのスマホ・タブレットを見る時間が多いのでは。数字・漢字を書く訓練（スキル）が大切である。
	② 表現力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表現力向上についての職員研修を充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人1授業と相互参観による授業改善 ・ 県から示された授業改善のポイントを意識した指導の実践 ○ 自分の考えを書いたり発表したりできる場を授業や集会、スキルタイム等に設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員研修で班毎に授業の視点を決め、一人ずつ全員が授業を行い、検証する研究を行ったので、課題意識をもち自己の考えを深める児童の育成に向けた手立てが共有でき実践につながっている。 ○ 自分の考えを授業、集会、給食時の放送などで披露したり、新聞への投稿、作品応募に挑戦したりすることで、表現力向上や意欲喚起につながった。 	4			
	③ 読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読んだ本を記録する読書通帳を活用し児童の意欲向上を図る。 ○ 図書委員会の働きかけによる読書推進を図る。 ○ 図書司書によるブックトークや放送による図書の紹介等を行い、興味をもたせる。また、古書の廃棄と図書の整理・補充を行い、環境整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の読書や読み聞かせの取組で意欲が高まっている。 ○ 各教科の学習で図書館を積極的に利用し、貸出冊数が増加した。（特に下学年） ○ 図書委員会で読書スタンプカードや読書おみくじを作成し活用したり、おすすめカードで本の紹介をしたりして、その期間の児童の読書意欲が向上した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書貸出冊数 R3…2197冊 児童一人分（37.8冊） 	4			
2 やさしい子	① 基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「有明小のあたりまえ」で指導内容の共通理解を図り、現場指導を徹底し、基本的な生活習慣の定着を図る。 ○ 「進んであいさつ」を奨励する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ あたりまえ徹底週間を月初めの週に設定し、基本的な生活習慣の定着を図るために各担任が共通指導を行った。 ○ あいさつ運動期間を設定し、地区ごとに校門に立ってあいさつを行ったり、一言プラスしたあいさつをほめたりしたことで、気持ちのこもった挨拶をする児童が増えた。また、教師や来校者への会釈などもできる児童が増えてきている。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケートで保護者・教師が共に100%の項目でも、児童が数%でも「いいえ」と答えた部分が何だったのかを重視したい。 ○ 「明るいあいさつ」が自然にできるとよい。 ○ 上級生が下級生のことも気にしながら仲良く登校している姿をうれしく思う。あいさつも子供からしてくれる子もいる。
	② 心の教育推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳や学級活動を通して、ソーシャルスキルトレーニング等による社会性の育成を図る。 ○ 学級や全校でよい行いをした児童を紹介することで自己肯定感をもたせ、人に優しく接する態度を育てる。 ○ いじめ防止対策委員会等の会議内容を全職員で共通理解し、指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月、児童にアンケートを実施することで児童の困り感等を把握し、教育相談を行った。その内容や日ごろの指導をもとに、いじめ防止対策委員会等を全職員で行い、指導内容を共通理解することで、担任だけでなく全職員で共通した指導が行えるようにしている。 	5			
3 たくましい子	① 健康の保持増進に関する理解	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活リズムチェックを活用し、児童一人一人が自分の健康状況を知り、健康な身体づくりに関心をもち、学校や家庭での生活を改善しようとする態度を育てる。 ○ 立腰についての掲示や放送により、児童の意識を高め、良い姿勢で学習しようとする態度を育てる。 ○ 健康診断後の治療勧告を定期的実施し、治療率をあげる。 ○ 縄跳び運動を中心とした運動の日常化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健食育週間を毎月設定し、その期間に生活リズムチェックを行うことで、児童一人一人が自分の健康状態を把握し、健康な体づくりに関心をもち、生活を改善しようとする態度が向上している。 ○ むし歯治療率は現在50.0%である。治療率は上がったものの、治療案内を出しても未治療のままの家庭もある。 ○ 年度始めに「なわとびカード」を配付し、年間を通してなわとび運動に親しませるようにした。その結果、昼休み時間や家庭でなわとびに取り組む児童が増えた。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活リズム、姿勢（立腰）は大人でも難しいが、今から身に付けば一生の習慣になる。継続して指導していただきたい。 ○ むし歯治療率が向上したのは大変良かった。引き続き取組をお願いしたい。 ○ 登校時のマスク使用もよく守れている。 ○ コロナ禍で家にいる時間が多い。健康のために運動をする習慣は必要である。「なわとびカード」の取組いいですね。家でもどこでもできるし、いい運動になると思う。ラジオ体操の実施をお願いしたい。
	② 「新しい生活様式」の理解と実践	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手洗いや手指消毒・マスク着用・ソーシャルディスタンスの意識化など新型コロナウイルス感染防止に関わる取組を日常的なものにし、自分の健康は自分で守るよう継続的な実践を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎朝の検温、マスク着用等、自己健康管理能力の育成を図った。継続的指導により、身に付いてきている。 	4			
4 地域 家庭との連携	① 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノーメディアデー、学校だより、保健だより、学級通信、生活リズムチェック等を通して、家庭での望ましい生活リズム、家庭学習、むし歯の治療など、児童と保護者の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6月の児童集会にて、メディア活用について指導を行い、その後は生活リズムチェックで自分の活用を振り返るようにした。 ○ メディア活用の時間やノーメディアデーの取組をカードに記入させ、自分のメディアとの付き合い方を把握させた。 	3	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手伝いは家庭で取り組みやすく、絆や協調性が養われてよい。アンケートを見る限り親子読書はあまりできていない。家庭での読書をもっと日常化できるとよい。 ○ ノーメディアデーが非常に難しい。放課後や家庭でノーメディアデーの日の過ごし方の定番がいくつか作れるとよい。
	② 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域人材を活用した活動を推進する。 ○ 有明校区コミュニティ協議会との連携を一層密にして、地域と連携した活動の充実を図り、地域とともに発展する学校づくりをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 田植え・稲刈り、魚しょく、海浜活動、金谷小交流学习、もちつき会等、地域の方やJA青年部、漁業協同組合、金谷小学校に協力いただき、児童に必要な体験活動を行うことができた。 ○ コロナ禍もあり、有明校区コミュニティ協議会との連携が図れなかった。 	4			<ul style="list-style-type: none"> ○ グリーンタイム、餅つきは、子どもたちと楽しく交流できた。 ○ 地藏祭り、盆踊り、十五夜綱引きもコロナ禍で交流できなくて残念だった。行事等が縮小、中止となっているが、コロナ感染状況をみながら地域住民との交流の実施を希望する。 ○ ゲーム・SNS・YouTube等の使用時間が課題である。